

# ダム工学投稿の手引き

## A. 投稿にあたって

### 1. 投稿者

投稿にあたってはダム工学投稿規定に準拠します。ダム工学会が主として個人の資格で参加して構成された団体であることを尊重し、原稿は著者個人の名で提出して下さい（連名も可）。

なお、本会の各種の委員会および研究部会はその成果を投稿することができます。委員会および研究部会の報告については、別に定める委員会・研究部会報告の掲載基準によるものとし、詳細はダム工学編集委員会（以下委員会という）で決定します。

### 2. 原稿提出日

原稿は随時、受付けております（討議を除く）。

受付けた原稿は原稿台帳に登録され、査読に入ります。

### 3. 投稿原稿

#### 3.1 投稿区分

論文集には、i) 論文、ii) 報告、iii) ノート、iv) 討議、v) 委員会報告の投稿区分が設けられておりますので、投稿規定をご覧下さい。

#### 3.2 原稿の具備すべき条件

投稿原稿の具備すべき条件として考えられるのは、

- 1) 正確であること。
- 2) 客観的に記述されていること。
- 3) 内容、記述について十分な推敲がなされていること。
- 4) 原稿は和文、英文のいずれかであること。
- 5) 未発表であること。
- 6) 他学協会誌等へ二重投稿していないこと。

の6点があげられます。

5)に関して、既に発表した内容を含む原稿でも、次に掲げるいずれかの項目に該当する場合投稿を受け付けます。

- 1) 新たな知見が加味され再構成された論文。
- 2) 個々の内容については既に発表されているが、統合することにより価値のある論文となっている

もの。

- 3) 限られた読者にしか配布されない刊行物に発表された論文。

個々の論文がこれらに該当するか否かの判定は委員会で行います。この判定を容易にし、また正確を期すため、投稿にあたっては既発表の内容を含む場合、あるいは関連した内容の場合には、これまでどの部分を、どの程度、どの刊行物に発表してあるかを論文中に明確に記述して下さい。

なお、ひとつの論文はそれだけで独立したものでなければなりません。非常に大部な論文を連載形式で完結するという事は避けて下さい。

#### 3.3 原稿のまとめ方

原稿は次のようにまとめて下さい。

- 1) 目的を明示するとともに重点がどこにあるかが容易にわかるように記述して下さい。
- 2) 既往の研究・技術との関連を明らかにして下さい。すなわち、従来の研究・技術のどの部分を発展させたのか、どのような点がユニークなのかを示して下さい。
- 3) 原稿は要点をよくしぼり、簡潔に記述して下さい。

原稿は、例えば、次のような順序で記述するとよいと考えられます。

- ① 目的
- ② 方法
- ③ 結果と考察
- ④ 結論

- 4) 論文の表題は簡潔で、その内容を十分に明らかに表現するものとして下さい。原則として 30 字以内（英文 15 ワード以内）とします。副題を付すことや長い論文を分割して、その 1、その 2…とすることは認めません。

#### 3.4 和文・英文要旨およびキーワードについて

- 1) 本文の要旨を簡潔にまとめて下さい。
- 2) 内容を十分に表すキーワードを和・英文で 3～5 語選んで所定の箇所に記入して下さい。

## 4. 査読

### 4.1 査読の目的

投稿原稿（論文、報告、ノート）が、ダム工学に掲載される原稿として、ふさわしいものであるかどうかを判定するための資料を提供することを目的として査読が行われます。査読に従って見出された疑義や不明な事項について修正をお願いすることがあります。

ただし、原稿の内容に対する責任は本来著者が負うべきものであり、その価値は一般読者が判断すべきものであります。

したがって、査読では「3.2 原稿の具備すべき条件」ならびに投稿規定の「2. 投稿原稿の区分」に記載される各区分の内容に適合しているかどうかを判断します。

### 4.2 査読員

査読は委員会の指名した査読員が行います。原則として論文では3名、報告、ノートでは2名の査読員を選定します。

### 4.3 査読の方法

#### 4.3.1 評価

査読にあたり、投稿原稿がその分野においていかなる位置づけにあるか、研究・技術成果の貢献度が大きいかなどの点について、以下の項目にてらして客観的に評価します。

(1) 新規性：内容が公知・既発表または既知のことから容易には導き得るものではないこと。

たとえば、以下に示すような事項に該当する場合新規性があると評価されます。

- a) 主題、内容、手法に独創性がある。
- b) 学界、社会に重要な問題を提起している。
- c) 現象の解明に大きく貢献している。
- d) 創意工夫に満ちた計画、設計、工事等について貴重な技術的検討、経験が提示されている。
- e) 困難な研究・技術的検討をなした貴重な成果が得られている。
- f) 時宜を得た主題について総合的に整理し、新しい知見と見解を提示している。

(2) 有用性：内容が工学上、工業上、その他実用上

何らかの意味で価値があること。

たとえば、以下に示すような事項に該当する場合は有用性があると評価されます。

- a) 主題、内容が時宜を得て有用である。
- b) 研究・技術の成果の応用性、有用性、発展性が高い。
- c) 研究技術の成果が有用な情報を与えている。
- d) 当該分野での研究・技術のすぐれた体系化をはかり、将来の展望を与えている。
- e) 研究・技術の成果は実務に取り入れられる価値を持っている。
- f) 本原稿を掲載することは会員および読者に益するところが多い。
- g) 今後の実験、調査、計画、設計、工事に取り入れる価値がある。
- h) 問題の提起、試論またはそれに対する意見として有用である。
- i) 実験、実測のデータで研究、工事等の参考として寄与する。
- j) 新しい数表、図表で応用に便利である。

(3) 完成度：内容が簡潔、明瞭に記述されていること。

本論の展開が読者に理解できるように記述されているかについて評価します。ただし、著しい厳密さ、正確さ完璧さ、格調の高さ等は必要としません。次のような点についても留意して評価します。

- a) 全体の構成が適切か。
- b) 目的と結果が明確か。
- c) 既往の研究・技術との関連性は明確か。
- d) 文章表現は適切か。
- e) 図・表はわかりやすく作られているか。
- f) 全体的に冗長になっていないか。
- g) 図・表等の数は適切か。

(4) 信頼度：内容に重大な誤りがなく、また読者からみても信用の置けるものであること。次のような点においても留意して客観的に評価します。

- a) 重要な文献が落ちなく引用され、公平に評価されているか。
- b) 従来からの技術や研究成果との比較や評価が

なされ、適切な結論が導かれているか。

- c) 実験や解析の条件が明確に記述されているか。

#### 4.3.2 判定

各査読員は 4.3.1 での各項の評価と、既に掲載された論文、報告を参考にして、水準以上であれば、掲載「可」とし、掲載するほどの内容を含まないと考える場合および掲載すべきでない場合「否」とします。

ただし、4.3.1 での各項の評価のうち、1 つでも問題があると評価されても「否」と判定されるものではありません。多少の疑義、疑問な点があっても学術や技術の発展に寄与する内容があるものは掲載されるように配慮します。

掲載可否の判定は、3 名（報告、ノートの場合は 2 名）の査読結果に基づいて委員会で行います。査読員 2 名以上が「可」であれば、原則としてこの投稿原稿は掲載可となります。その際、査読員からの修正意見があれば、委員会で検討のうえ、修正依頼を行います。修正意見に対して著者が十分な回答を行ったかどうかは委員会で判断します。必要があれば修正意見を出した査読員に再査読をお願いすることもあります。

#### 4.4 討議

討議の査読は、当該論文、報告およびノートの査読を行った査読員のうちの 1 名に依頼します。

査読の結果、討議が適当な内容と判断された場合には、原著者に回答依頼を致します。回答原稿が提出されれば、回答を査読し、討議・回答の内容が適当と判断された時点で掲載致します。

#### 5. 著作権と著者の責任

投稿規定 4. のとおり、学術部門の著作権ならびに著作権は本会に委譲され、一般部門の著作権は著者に帰属しますが、原稿の内容については投稿者が責任を持つこととなります。したがって、印刷後発見された誤植については発行後 6 カ月を限って訂正のページを設けますが内容にわたる変更は行いません。もし、内容の修正が必要になった場合にはノートとして投稿して下さい。

#### 6. 著作権の行使の委任

他人の著作物を引用（転載）する場合の手続きの簡略化、外部へのデータベース情報の提供、近い将来予想される「著作権の集中処理機構」への参画など、著作権をめぐる内外の情勢は大きく変化しております。本会へ著作権の行使を委任していただくことにより、それらを迅速に対処することができます。

#### 7. その他

- (1) 投稿原稿は、本会到着の日付を受付日とします。
- (2) 投稿原稿は、体裁上最小限必要とされる条件が満足されているかどうかのチェックがなされ、これが満足されていない場合は受付を一時保留し、原稿を返送するか、もしくは著者に問い合わせを行います。
- (3) 査読の結果、掲載が不適当と判定された場合は、編集委員会事務局で原稿データを破棄致します。
- (4) 個々の原稿についての査読員名および査読内容は公表いたしません。
- (5) 論文集に掲載が決定された原稿は、事務的に編集作業を行います。原稿が組上がったのち、校正刷を一度著者に送付いたしますので指定された提出期限までに校正し返送して下さい。印刷作業の日程の都合で、著者からの校正が印刷に間に合わない場合の責任は負い兼ねます。著者校正の際に大幅な原稿の変更は認めませんのでご注意下さい。
- (6) 別刷をご希望の方には実費で印刷いたしますので、著者校正の際に必要な部数をお知らせ下さい。

#### B. 原稿の書き方

##### 1. 原稿作成および提出方法

1.1 投稿規定 8. に記載のとおり本学会ウェブサイトにあるサンプルファイル（スタイルシート）を用いて原稿を作成し、これを PDF 形式に変換した上で、同ウェブサイト上にある受付シート（xls ファイル）に必要事項を記入したものを添えて、事務局宛てメールして下さい。

##### 1.2 表題

本学会ウェブサイト上のサンプルファイル（スタイルシート）をご参照の上、表題（和文）、著者名（和文）、表題（英文）、著者名（英文）、所属・職名

(和文)を作成して下さい。

(和文原稿の例)

重力式コンクリートダム  
の構造の安定性に及ぼす  
鉛直地震動の影響

永山 功<sup>1</sup>・佐々木 隆<sup>2</sup>

Effects of Vertical Acceleration of Earthquakes on  
Structural Stability of Concrete Gravity Dams

Isao NAGAYAMA, Takashi SASAKI

<sup>1</sup>建設省土木研究所ダム構造研究室長

<sup>2</sup>建設省土木研究所ダム構造研究室主任研究員

(英文原稿の例)

Key Parameters Governing Dynamic Granular Slope  
Stability

Kazuo KONAGAI,<sup>1</sup> Takashi MATSUSHIMA<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Dr. Eng., Professor, <sup>2</sup>M. Eng., Institute of Industrial  
Science, University of Tokyo

Roppongi, Minato-ku, Tokyo 106

### 1.3 要旨およびキーワード

論文, 報告, ノートには和文要旨と英文要旨をつ  
けます。

要旨の下に, 和文, 英文それぞれ 3~5 語のキーワ  
ードを入れて下さい。

### 1.4 本文

#### 1.4.1 文章および章・節・項

文章は口語体により, とくに英文もしくは片か  
な書きを必要とする部分以外は漢字まじり平かな  
書きとして下さい。私的な表現, 広告, 宣伝に類  
する内容の記載は避けて下さい。

章・節・項の見出しの数字は, 本学会ウェブサ  
イト上のサンプルファイル(スタイルシート)を  
ご参照の上, つけて下さい。

1., 2., 3. ……章(見出し, ゴシック体=太字)

1.1, 1.2, 1.3 ……節(第2レベルの見出し, ゴ  
シック体=太字)

(1), (2), (3) ……項(第3レベルの見出し,  
明朝体)

#### 1.4.2 式および記号

式や図に用いられる文字, 記号, 単位記号などは  
できるだけ常識的な記号を使い, 必要に応じて記  
号の一覧表を付録としてつけて下さい。数式はで

きるだけ簡単な形でまとめて, 式や展開や誘導の  
部分を少なくして文章で補って下さい。式を書く  
場合には, 記号が最初に現れる箇所に記号の定義  
を文章で表現して使って下さい。また, 同一記号  
を2つ以上の意味で使うことは避けて下さい。

#### 1.4.3 単位系

単位は原則として SI 単位を用いて下さい。

単位に, 従来単位系を用いる場合は, かつこ書  
きで SI 単位系を併記して下さい。

例: 単位体積重量 1 tf/m<sup>3</sup> (9.8 kN/m<sup>3</sup>)

応力 5 kgf/cm<sup>2</sup> (0.49 MPa)

#### 1.4.4 海外の固有名詞について

一般的でない海外の固有名詞(地名・人名)に  
ついては, 英文が判るように現地名を( )で記載  
するなどの配慮をお願いします。

例: コヨーテ (Koyote) ダム

繰り返し出てくる場合は, 最初だけ記載して下  
さい。

#### 1.5 図, 写真および表

1) 図, 写真, 表は, 著者から提出されたものをそ  
のまま印刷に使用しますので, 著者の責任におい  
て完全な, 図, 写真, 表を提出して下さい。

特に, 原則として白黒印刷となりますので, 原  
稿でカラーの図, 写真, 表を使用する場合は, 白  
黒印刷でも十分識別できるよう配慮をお願いします。  
なお, 著者が印刷費の一部を負担することによ  
り, カラー印刷にすることも可能です(投稿規  
定 3. を参照して下さい)。

2) 図, 写真, 表の大きさは, 出来上がりで横幅 8  
cm (1 段の幅) を基準とします。これより図, 写  
真, 表を大きめにしたいときには横幅を 17 cm (2  
段の幅) とすることができます。これを超える場  
合は横長に使用し, 最大を 24 cm (ただし最大縦  
幅は 17 cm) として使用することができます。

3) 1 段の幅の中で図, 写真, 表の横には本文を組  
込みません。

4) 図, 写真, 表の中の文字や数式の大きさが小さ  
くなり過ぎないようにして下さい。

5) 図と写真との区別をせず, 図で統一して下さい。

6) 図の標題と説明は図-1, 図-2 のように通し番号

を付けて下さい。

- 7) 表の標題は表の上に、注や説明は表の下に書いて下さい。
- 8) 図、表、写真を他の著作物から引用する場合は、出典を必ず明記し、かつ必要に応じて原著者の了承を得て下さい。
- 9) 図の製図方法は原則として「土木製図基準」を参照して下さい。でき上がりを考えて線の太さ、文字の寸法に注意して下さい。文字はでき上がり2~3 mmとなるのが標準です。また、記号類は小さすぎないように少し大きめに描くようにして下さい。

1.6 参考文献

- 1) 参考にした文献は引用順に番号をつけて本文末にまとめて記載し、文中にはその番号を右肩上に示して文末の文献と対応させて下さい。
- 2) 参考文献の書き方は、著者名、論文名、雑誌名(書名)、巻号、ページ、発行年の順に記入して下さい。英文の雑誌の場合は、姓、イニシャルとします。

著者数が多い場合は第一著者のみ上記の規則によって書き、後を“ほか”, “et al.”として省略してもかまいません。また、英文雑誌の場合は論文の表題は第1字のみ大文字、その他は固有名詞以外はすべて小文字とします。

単行本の場合は、著者名、書名、発行所、ページ、発行年とします。英文の単行本の場合は書名は各単語とも頭文字は大文字とします。

雑誌の場合

(和文)

工藤勝弘：水質の改害技術，環境技術，**29** (10)，30-34，2000

(英文)

Amano, K., Fujiwara, M. and Niwa, K.: Effect of artificial circulation on water quality in a dam reservoir, *6th International Conference on the Conservation and Management of Lakes*, Proc. 2, 985-988, 1995

単行本の場合

(和文)

ファン, Y.C.: 固体の力学/理論, 大橋義夫, 村上澄男共訳, 培風館, pp. 102-107, 1970

(英文)

Karniadakis, G.E., Orszag S.A., Suzuki, Y. and Yakhot, V.: Renormalization group theory simulation of transitional and turbulent flow over a back ward-facing step. *Large Eddy Simulation of Complex Engineering and Geophysical Flows*, Galperin, B. and Orszag, S.A. eds., Cambridge University Press, Cambridge, pp. 159-177, 1993

1.7 脚注

文中の脚注は、そのつど原稿用紙の下部を使用して下さい。文中には\*印を入れ解説には各節の段落に入れます。

2. 組版上の注意

特殊な記号、文字は活字がないこともありますので、元原稿には赤で注記をつけるなどの表示をして下さい。

ローマ字、アラビア数字、ギリシャ文字、上ツキ、下ツキ、大文字、小文字などには紛らわしいものがありますから、はっきり赤で注記して下さい。

まぎらわしい文字

a	b	c	e	g	u	n	w	E	B
o	f	i	ε	q	u	v	ω	ε	β

Z	r	a	K	u	P	X
Z	γ	α	κ	μ	ρ	χ

大文字と小文字の区別のつきにくいもの

C	I	K	O	P	S	V	W	X	Z
c	i	k	o	p	s	v	w	x	z

など

3. 原稿の書式

3.1 和文

① 論文・報告・ノート(和文・英文とも)の表題、著者名は、和文・英文両方で記述して下さい。

② 見出しについて

本学会ウェブサイト上のサンプルファイル(スタイルシート)をご参照ください。

③ 式の書き方

## 投稿の手引き

- a) 数学記号，単位記号，量記号も原則として1 ますに1 字を記入して下さい。
- b) カッコなどの記号類，下ツキ，上ツキなどの添字も1 ますに1 字を記入することを原則とします。
- c) 分数式の場合は，下記を参考にして行数を換算して下さい。式が連続する場合は相当スペースをとりますので注意して下さい。

$$f(t) = \sqrt{I_0 / \phi} \quad (1 \text{ 行分の式})$$

$$\omega = \sqrt{\frac{4k_1 - k_2^2}{4}} \quad (2 \text{ 行分の式})$$

$$A_x = \frac{1 - e^{-\frac{\alpha_x^* \Delta t}{\rho}}}{\rho} \quad (3 \text{ 行分の式})$$

- d) 式を書くときに，必要以上につめて書いたりは絶対にしないようにして下さい。

### 3.2 英文

#### ① 1 段組，A4 判

左右 10 ピッチ・約 16 ワード（約 100 字）

天地 2.0 スペース・40 行

- ② 行を変える場合は，文頭を2 字下げて下さい。
- ③ 章・節の上下はそれぞれ1 行ずつあけて下さい。
- ④ 式の書き方  
和文の場合に準じます。

投稿に関する問合せは下記までご照会下さい。

〒116-0013

東京都荒川区西日暮里 5-16-7

三美印刷株式会社内

ダム工学編集委員会事務局

電話 03-5843-3579

E-mail: dam@sanbi.co.jp

### 付 記

1990 年（平成 2 年）	9 月 14 日	制 定
1994 年（平成 6 年）	9 月 15 日	一部改訂
1997 年（平成 9 年）	3 月 15 日	一部修正
1998 年（平成 10 年）	1 月 20 日	一部修正
2011 年（平成 23 年）	7 月 19 日	一部改訂
2019 年（令和元年）	6 月 14 日	一部修正
2019 年（令和元年）	10 月 15 日	一部改訂